

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立仰木の里小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

学力調査について全国や滋賀県の平均正答率と比較すると、国語では「話すこと・聞くこと」の領域で全国・県平均を上回っています。「書くこと」は全国・県平均を下回っています。「読むこと」では県平均を上回っていますが、全国平均を下回っています。

算数では、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データ活用」のすべての領域において全国・県平均を上回り、特に「変化と関係」の領域では全国・県平均を大きく上回っています。

学習状況調査では、「算数の勉強は大切だと思いますか。」など算数への関心等の項目が全国・県平均を上回っています。ICT機器を使用した学習の有用性を感じている割合も全国・県平均を上回っています。また、「国語の勉強は好きですか」など国語への関心等の項目は全国・県平均を下回っています。学校の授業時間以外の学習時間については、長時間（平日3時間以上、休日4時間以上）する子の割合が多いですが、全くしない子の割合も多いという結果です。

《強み・弱み》

本校は、学習に「協同的な学び（学び合い）」のスタイルを取り入れ、子どもたち同士で話し合い課題を解決する活動に力を入れて指導しています。そのため、子どもたちは、困難な課題に対しても一生懸命取り組む姿勢が見られ、そのことが成果につながっていると考えられます。

国語科においては、選択問題での正答率が高く、ひとつひとつの選択肢の言葉を正しくとらえて検討する力が育っていると考えられます。一方、漢字の正答率が低いという課題が見られました。

算数科においては、答えを文章で書く課題では無答率が低く、正答率が高いという成果が出ています。一方、図や表を正しく読み取って解く問題に課題が見られました。

生活面では、規範意識が高く、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問で全国・県平均より高いなど、自立して前向きに学んでいこうとする態度が育っていることが伺えます。

【指導の充実に向けて】

- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改善に取り組み、ペアやグループで考えを聴き合い、自分の言葉で表現する活動を引き続き多く取り入れていくように努めます。
- ・漢字や計算などの学習を丁寧に行い、より一層の基礎基本の定着を図ります。
- ・学習の振り返りでは、条件設定（キーワードを入れるなど）をし、書く力の向上を目指します。教師の説明ではなく、自分の言葉でまとめたり表現したりする機会を意図的に増やします。
- ・生活につながる課題を設定し、自分の考えを文章や図などを使って筋道を立てて説明する活動や、図や表など資料から読み取ったことをもとに考察し説明する活動を多く取り入れます。
- ・今後も全校体制で「自分を高める3つの行動」に取り組み、「学びへ向かう力」や「人との関係を結ぶ力」をさらに伸ばしていきます。また、「見つけよう☆いいところ」を合い言葉として、月1回の「人権の日」や「みのりの木」など学校全体での取り組みに加え、学級や学年、児童会活動、地域との交流など様々な人との関わり合いの中で、自己有用感を高める取り組みを進めます。